The Young Women's Christian Association
YWCA

4
APRIL 2022
No.767

www.ywca.or.jp

〈第33総会期主題聖句〉
平和を実現する人々は幸いである
―マタイによる福音書5章9節―

〈ビジョン〉
女性がリーダーシップを発揮し、
人権・平和・環境を大切にする社会

〈ミッション〉
若い女性をエンパワーし、共に社会変革を進めます。

〈バリュー〉
キリスト教基盤　平和・環境　人権　セーフスペース

特集 先達の灯は、いま

2～3面 「河井道の光にたどりつくまで」
『らんたん』作者・柚木麻子
4面 わたしはこう読んだ
5面 この光を共に輝かせよう

受け継がれる光

YWCA時代と思われる河井道（左）と一色ゆり（右）。道が総幹事を務めていた1914年、ゆりは世界YWCA総会（ストックホルム）に日本代表として出席した

写真提供／恵泉女学園史料室

柚木麻子さんの小説『らんたん』がおもしろい。主人公は、恵泉女学園の創立者で、日本YWCAの礎を築いた河井道。そして、道とシスターフッドの絆で結ばれた一色ゆり。明治から昭和にかけて、日本女性たちの自立とエンパワメントを求め、女子教育にかける二人のパワフルな歩みを活写する。津田梅子、広岡浅子、井深花子、村岡花子などYWCAにゆかりの女性たちが生き生きと描かれているのも魅力。史実をもとに書かれたフィクションだが、河井道の精神が灯された『らんたん』を手がかりに、私たちに受け継がれている光に思いを馳せてみよう。

『らんたん』
柚木麻子／著　小学館／発行
1800円＋税

『らんたん』執筆秘話

河井道の光にたどりつくまで

小説家　柚木麻子

私が『らんたん』を書くきっかけは同時期に起きた二つの出来事が混ざり合っている。子どもを妊娠中だったから、どっちも五年前のことだとよく覚えている。

一つは、母校・恵泉女学園を訪れた時。十年前から文芸部でコーチをしているのだが、部活終わりに、図書室の中にある史料室の展示物をなにげなく眺めていたら、創立者だという河井道の写真を見つけた。村岡花子、広岡浅子、津田梅子――。いずれも超有名人と一緒に写っているものばかり。吉田茂の直筆の手紙や、新渡戸稲造からのサインがある旅券なども並んでいた。ずっとそこにあったのに、その時だけやけに気にかかった。

それからしばらくして、ウェブマガジン『Sister Magazine』さんからインタビューを受ける。開口一番「シスターフッドを描き続けるのは何故ですか？」と質問された。「シスターフッド」という言葉が今ほど浸透していなかったので聞き返すと、インタビュアーさんは「女性同士の連帯のことだ」と教えてくれた。今でこそフェミニズムの文脈で語られることが多い私の作品だが当時は「女同士のドロドロした怖い描写が上手い」作家だと思われていて、前向きな捉え方をされることがなかったので、うれしかった。その夜、ウキウキして「シスターフッド」をグーグル検索してみた。今だと結果は違うのかもしれないが、真っ先に出てきたのが恵泉の恩師である一色義子先生による『河井道と一色ゆりの物語―恵みのシスターフッド』だったので、本当に驚いた。運命を感じてさっそく取り寄せて読んでみると、河井道は義子先生のお母さまでもある一色ゆりとその夫・乕児（とらじ）の支えがあって恵泉女学園を作ったことがわかった。夫妻が道をサポートするために建てたとされる学園のそばのお屋敷は数年前に取り壊されたが、恵泉OGならみんなよく知っている。ドラマロケに使われたこともあるほど雰囲気のある、ゴシック様式の古い洋館である。有名人ばかりではなく、赤の他人である一色夫妻にここまで尽力させた河井道ってどんな人なんだろう。もしかして、すごく魅力的な人なのでは？　その時、執筆中だった『マジカルグランマ』に古いお屋敷を登場させたかったこともあって、これはいい取材になるのでは、と思い、私は学園史料室を通して、義子先生をはじめとする一色家の方々に取材を申し入れた。そこでうかがった、一色夫妻それぞれの生い立ち、道をふくめる三人の信頼関係や、屋敷の歴史に興奮し、すぐに道とゆりの年表を作り始めた。二人の友情を書こう、と決心し、遺族の皆さんに許可をとった。学園史料室に通い、膨大な書簡や学園に残る記録を読ませてもらい、義子先生からも話を聞いた。史料を読み込むうちに、今は北星学園と名を変えている、道が幼い日に通った北海道のサラ・クララ・スミス女学校、恩人の津田梅子が起こした女子英学塾あらため津田塾大学には、絶対に取材をしなければならないとわかり、仕事上のツテや友人の助けを借りて、どちらにも訪れることが叶った。道が通ったアメリカのブリンマー大学にも、恵泉の恩師のご家族の力で、取材をさせてもらえることが決まった。

すべては順調に進んでいたが、構想三年目にして新型コロナウイルスの感染が広がった。学園史料室は閉鎖、対面取材はもちろんアメリカへの渡航も困難となった。保育園は休園となり、自宅育児を余儀なくされた。

河井道は歴史上の有名人ではない。学園史料室が閉まっていれば情報は絶たれる。もう執筆を断念しようか。悩んでいる時に、ふいに閃（ひらめ）いた。一番最初にインスピレーションを得た史料室前に飾られた、著名人と映る道の写真

である。そうだ。河井道を巡る人々は、教科書にも載る有名人ばかりではないか。広岡浅子や村岡花子だけではない。平塚らいてう、山川菊栄、吉屋信子、竹中繁まで。女たちの自伝や関連書籍を開けば、そこに道の名前はちゃんと登場している。私は道を巡る人々の本をネットで買い漁った。道とゆり、学園の年表に、著名人たちのそれを次々に足していった。気付けば畳三畳分になった。道とゆりだけではなく、近代日本で女性の権利のために闘った女性たちを星座のようにつなぐ物語にしよう、とプランを変更した。自粛と育児と並行しての執筆は集中力が続かず苦労したが、感染拡大のせいで、河井道を直接知るOGがみんな在宅していて、電話取材に応じてくれたことはとても助かった。

昨年やっと上梓した『らんたん』はおかげさまで順調に版を重ねている。くじけそうになるたびに『わたしのランターン』の前書きに救われてきたのだが、その河井道の言葉をもって終わりとしたい。

学校の生徒たちに対しても、恵泉女学園とその創立者のことを書きとどめておく義務があるのではなかろうか。そうすれば、いつか彼らが恵泉のもっと完全な歴史をもし書くことでもあれば、「わたしのランターン」はその仕事に光をかすことになるのではなかろうか。

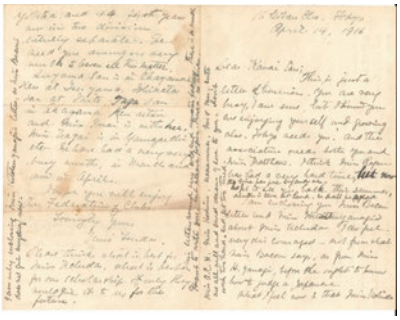
©稲垣純也

profile

柚木麻子 ［ゆずき　あさこ］

1981年、東京都生まれ。恵泉女学園中学・高等学校、立教大学文学部卒業。2008年に『フォーゲットミー、ノットブルー』でオール讀物新人賞を受賞。10年『終点のあの子』（文藝春秋）でデビュー。15年『ナイルバーチの女子会』（文藝春秋）で山本周五郎賞受賞。主著に『本屋さんのダイアナ』（新潮社）、『伊藤くん AtoE』（幻冬舎）、『BUTTER』（新潮社）など。『マジカルグランマ』（朝日新聞出版）は第161回直木三十五賞候補に。

一色馬児、ゆり、義子一家が暮らした「一色邸」。道を支えるために学園のそばに建てられた（K）


梅子が道に宛てた書簡。梅子は道の師であり、2人もまたシスターフッドで結ばれていた。『らんたん』では「私がともした光より、もっと大きな光にして、それをまた新しい世代に継承するの」と道に託す場面も（K）

河井道（左）と一色ゆり（右）。中央は作者の恩師の一色義子さん（C）
『河井道と一色ゆりの物語―恵みのシスターフッド』（キリスト新聞社）より

河井道の自伝『My Lantern』の初版（1939年）。68年に翻訳版『わたしのランターン』が出版された（K）

1913年のYWCA夏期修養会では、道（前列中央）と共に広岡浅子（中央の洋装）も指導を務めた。ゆりも何度か参加した

1905年、女子英学塾にて津田梅子（後列中央）と道（後列右から３人目）。当時２人は日本YWCAの創立委員でもあり、ゆりは同塾の生徒だった（K）

写真提供／（C）キリスト新聞社、（K）恵泉女学園史料室

『らんたん』わたしはこう読んだ

昨年10月の発行以来、新聞や雑誌の書評欄で好評を得ている『らんたん』。YWCAメンバーはどう読んだのか。40年近く地域YWCAで活動してきた寺島順子さん、柚木麻子さんの小説の大ファンという樋口さやかさんの感想は？

小さくとも社会を照らす光となる

甲府YWCA会員 寺島順子

らんたん……ひらがな表記はなぜ？と、思いつつ読み進めると、フィクションなのに、ノンフィクションのおもしろさにハマってしまった。時代の移り変わり、河井道をめぐる人物の現実味、はたまたスイーツ好きにはたまらないお菓子の登場、甘い香りがしてくるような錯覚に陥ることも。激動の時代を、かくもたくましく生き抜いた女性たちの姿に、強烈な印象を受けた。そして、その女性たちはすべて私がYWCA の学びの中で出会った人々である。彼女たちの生涯をかけた闘いのおかげで、現在の私たちの活動があるとの思いを深くしている。

地方の小さなYWCA。在籍して40年近くなるが、目を閉じると天に帰られた先輩たちの姿が浮かんでくる。一緒に活動した日々、その中での会話や食事までが思い出される。職業婦人も、主婦も、学生も、多様な人々が、嬉々（きき）として集うところがYWCA。個性的であるがゆえに、時には衝突もあったけれど、平和なより良き社会の実現をめざすという、共通の目標のもと一緒に前を向いて進んできた。今年、甲府YWCAは創立75年を迎える。高齢化を悩みつつ、それでも今、若い世代も一緒に活動できている。河井道がアメリカで手にしたランターン、それは今、日本で、甲府でも多くの仲間たちの手に、「らんたん」として受け継がれている。受け継いだ「光」は小さくとも日本中の仲間たちの光が集まれば、それは「光の海」となり、新渡戸稲造の言う「社会全体を照らす光」となるのだ。

甲府YWCAで長年続く平和プログラム「ピースフェスタ」

柚木麻子さんとシスターフッド

福岡YWCA会員 樋口さやか

「女同士の関係は永遠じゃないわ。結婚や恋愛で終わってしまうのよ。」

物語の中で津田梅子がつぶやいたセリフだ。世の中には、異性愛を基本とした「家族」という関係が同性の友情よりも優先されるという規範があると感じる。親しい友人も、結婚や恋愛によって、その関係は決定的に変化をしてしまう。同性の友人との関係を異性との関係よりも優先させようとすると、「依存している」や「女の執着だ」と周囲は言う。私は親友の恋人に対して嫉妬のような感情を持ったこともある。そんな気持ちを周りにはみっともない女として見られるんだろうなと思って必死に隠している。

柚木さんの作品では、同じような女性がしばしば登場する。『らんたん』では河井道もそんな側面がある人物として描かれている。これまで苦楽を共にしてきた渡辺ゆりの婚約を知らされた道は動揺する。しかし、二人の関係はそれで終わりはしない。道とシスターフッドの契りを結んだゆりは一色乕児と結婚後、道と乕児と3人で共に生活を始める。柚木さんは、女と女がライフステージの変化にもとらわれず、喜怒哀楽を共有し、おいしいものを一緒に食べ、苦難を共に乗り越える姿を「シスターフッド」として前向きに定義してくれる。そしていつも、私に女同士の関係を大切にし、異性との関係と同じくらい大切にしてよく、それを恥じる必要はないということ、そして女性たちに、家父長制を中心とした規範をも乗り越えられることを感じさせてくれる。

ライフステージが変化しても仲間と共に活動を続けている

YWCAに
受け継がれた灯

この光を共に輝かせよう

日本YWCAの初代総幹事はカナダ人宣教師だった。創立7年目の1912年、バトンを託された河井道は、日本人初の総幹事となり、現在に続くYWCAの地平を切り拓いた。あれから110年。河井道から私たちに受け継がれてきたものとは―。YWCA会員として、また恵泉女学園大学名誉教授として、研究者として、河井道と向き合い続けてきた石井摩耶子さんに聞いた。

3つの精神

河井道からYWCAに受け継がれてきたもの。それは、彼女のパイオニア精神、チャレンジ精神、そして他者との協働の精神であると思う。とはいえそれは、恩師である新渡戸稲造やサラ・スミス、あるいは日本YWCA初代総幹事のキャロライン・マクドナルドから諭され促されて指導者としての道を歩む中で、鍛えられ磨かれていったものであった。

パイオニア精神は、YWCAが19世紀後半のイギリスで産声を上げた時からずっと、その組織に貫かれてきた。河井道もまた、女子英学塾教授という安定した職業を離れてYWCAという「未知の分野のパイオニア」となる決断をし、1912年には日本人初の総幹事に就任したのである。35歳の若さで英米やカナダからのベテラン外国人スタッフを統率する苦労は並大抵のことではなかったであろう。しかし彼女はそれをやり遂げた。

日本YWCA創立当時の28歳の河井道（1905年）

出会いと分かち合い

彼女のチャレンジ精神が発揮されたのは、日本YWCAの発足後間もない1906年、青山学院を会場に、女子学生のための夏期修養会を開催したことである。それは河井がかつてアメリカ留学中の夏休みに参加したシルバー・ベイでのYWCA修養会の感動体験が忘れられなかったからである。5泊6日の会議に日本全国から集まった165人の女子学生たちは、気鋭の講師陣に学び、初めて会う全国からの友と語り合い、祈りを合わせた。少女たちにとってすべてが未知の体験であり、新しい世界が開けた思いを共有したのである。

河井道の国際的な活動は1907年に東京で開催されたWSCF（世界学生キリスト教連盟）の大会に始まった。アジア初の大会で講演者の通訳の労をとるなど際立った活躍をした道は、WSCF委員会に招待されて会議後に欧州学生キリスト教運動の視察旅行に出かけたのである。おりしも彼女は、1910年にベルリンで開催される第4回世界YWCA総会のための準備委員に任命され、数ヶ月ロンドンに滞在して作業をし、その後WSCFからの招待旅行を済ませてベルリン入りし、立派な報告を行った。こうして、極東の小国日本からやって来た一人の女性キリスト教指導者は欧州で認められ、会議後に訪問したアメリカ各地でも歓迎され、国際的な指導者となったのである。それは、彼女が世界的なネットワークをもつ民主的な会員組織のYWCAに属していたからこそ実現したのである。西欧から輸入された組織ではあっても、そこにはそれを日本人による主体的・自発的な運動体に育てようとしたマクドナルドら初期のYWCAの指導者達の強い志があったことを、決して忘れることができない。

今こそ、YWCAの灯を

今日の日本の保守化し反動化した現状にあって、行動すべき時になかなか行動を起こすことのできない私たちの生き方が、河井道によって今問われているように思われる。YWCAの会員として取り組むべき課題が私たちの周囲には無数にある。現代世界と日本社会を改革するために粘り強く働くことこそが、河井道から受け継いだランタンの灯を輝かせ続けていくことになるのだと思う。日本のYWCAの会員にとって、河井道のパイオニア精神、チャレンジ精神、他者との協働の精神が、今こそ必要な時である。

東京YWCA会員　石井摩耶子

写真提供／恵泉女学園史料室

世界の仲間と
つながっている

活動に
「おいしいもの」
は欠かせない

歴史の真実に
出合い、
向き合う

平和が
訪れるまで
連帯する

ジェンダー平等と
女性の
エンパワメントを

「出会い」は
自分を変え、
世界を変える

日本国憲法を
守らせ、生かす!

受け継がれた
光は
絶えることが
ない

YWCAのシスターフッド

出会う！ つながる！ 共に社会を変える

日本YWCAは1905年の創設以来、多様な女性たちが出会い、共に手を取りあい、一人ひとりが大切にされる社会をめざして活動しています。

若い女性と少女が変革をもたらすために

国際会議に若い女性を送り出す

シスターフッドの物語が紡がれていく

日韓のユースが社会課題に取り組む

「本当の声」で話し合い、認め合う

地域に根差し、地域と共に

エンパワーするNGO
YWCA

シスターフッドを紡ぐ食

『らんたん』の陰の主役は「食」である。

帰国した河井道のためにゆりが手ずから川で捕まえてさばいたうなぎ、新渡戸稲造宅で食べた焼きたてのストロベリーパイなどは、この物語の文字通り良いスパイスだ。食はまたシスターフッドを結び、深める役割も果たしている。1日の仕事を終え、お茶やお菓子を食べながらその日の出来事を話し合う時間は、道とゆりにとって貴重な癒しのひとときだっただろう。戦局が激しくなり、お弁当がイモやカボチャだけになっても、クラスメートと草の上で食べれば、ピクニック気分だ。

思えば、YWCAのシスターフッドも食によって紡がれてきた。バザーのために代々受け継がれた秘伝のレシピでせっせと作る肉まんやジャムやクッキー。例会や委員会後のおかずを持ち寄っての昼食。若い世代のプログラムのためにシニアが愛情込めて握ってくれるおにぎり。みんなでテーブルを囲んで、おしゃべりして、多世代協働は胃袋から生まれるのだ。「共食（communion）」も「会話（communication）」も語源は同じ「分かち合う（communis）」だという。コロナ禍に負けず、YWCAの食のシェアの伝統をつないでいこう。

編集部会　吉田亜希

ご協力ありがとうございます

賛助費

浅原千代　岩崎妙子　小野田照代
梶原恵理子　金井淑子　幸田良子
篠原洋子　柴田恵子　田中義信
露木美奈子　中山美津江
仁木三智子　深田光代　文田則子
帆足嘉代子　皆川悦子　三宅純子
村松武司　吉田紀子　米本裕見子
日本キリスト教会沖縄伝道所
日本聖公会京都聖三一教会
平安女学院中学校・高等学校　宗教センター

ピースメーカーズ募金（平和を創り出す女性のリーダーシップ養成）

犬伏邦明　岩城紀代子　遠藤恵美子
河内常男　清塚典子　髙木博己
都木惠子　中山美津江　仁木三智子
野田美由紀　原美左惠　深田淑子
藤谷佐斗子　古川道子　帆足嘉代子
森田矩子　八星恵子　吉田紀子
英語研究会
日本聖公会帯広聖公会
日本バプテスト同盟駒込平和教会
日本キリスト教会札幌桑園教会
日本キリスト教団西千葉教会
日本キリスト教団聖ヶ丘教会
日本基督教団ひばりが丘教会
日本キリスト教会横浜海岸教会
日本基督教団六角橋教会
活水中学校・高等学校
学校法人九州ルーテル学院
恵泉女学園中学・高等学校 宗教部
西南学院高等学校
東洋英和女学院中学部高等部 母の会
日ノ本学園中学校・高等学校
広島女学院中学高等学校
フェリス女学院中学校・高等学校
福岡女学院中学校高等学校
普連土学園 宗教委員会
ペスタロッチ保育園
山梨英和中学校・高等学校
学校法人横浜英和学院
弘前ＹＷＣＡ
福島ＹＷＣＡ

次世代育成資金

浅田啓　山口慧子

災害時支援募金（オリーブの木キャンペーン募金）

浅原千代　犬伏邦明　木村浩子
斎藤康代　坂本純子　仁木三智子
深田淑子　藤谷佐斗子　帆足嘉代子
門司史世　保田諭子　八星恵子
矢部陽子
人形げきや　おたこ組　立田卓也
英語研究会
京都ＹＷＣＡ ブクラ
日本キリスト教団扇町教会
日本キリスト教団浪花教会 婦人会
日本バプテスト連盟山形キリスト教会
東洋英和女学院中学部高等部 母の会
福岡女学院中学校高等学校
大阪ＹＷＣＡ大宮保育園
弘前ＹＷＣＡ
一般財団法人仙台ＹＷＣＡ
一般財団法人平塚ＹＷＣＡ
湘南ＹＷＣＡ
匿名

（国内外の災害被災者支援）

犬伏邦明　嘉屋陽子
玉成保育専門学校
東洋英和女学院中学部高等部 母の会
一般財団法人呉ＹＷＣＡ

（パレスチナＹＷＣＡ支援）

０４２２市民クリスマス実行委員会

東日本大震災被災者支援募金

犬伏邦明　嘉屋陽子　木村浩子
国井昌光　国井愛　久保マサ子
島田由香　中野キミ子　仁木三智子
深田淑子　古川道子　町田洋子
皆川悦子　八星恵子　山本鉄子
吉田紀子　吉岡真紀子
英語研究会
大阪女学院中学校・高等学校
大森ルーテル幼稚園　園児一同・保護者一同
女子聖学院中学高等学校
捜真女学校 同窓会・ＰＴＡ
学校法人玉川聖学院
東洋英和女学院中学部高等部　母の会
福岡女学院中学校高等学校
日本キリスト教団扇町教会
日本福音ルーテル小石川教会 婦人会
日本キリスト教団佐世保教会
日本キリスト教会札幌琴似教会
日本キリスト教団都島教会
日本聖公会宮古聖ヤコブ教会
日本福音ルーテル大森教会
弘前ＹＷＣＡ
甲府ＹＷＣＡ
一般財団法人平塚ＹＷＣＡ
一般財団法人呉ＹＷＣＡ

（カーロサポーターズ募金）

カーロサポーターズ　59件

（2021年12月16日～2022年2月15日敬称略）

発行所 公益財団法人日本YWCA　〒101-0062 千代田区神田駿河台1-8-11　東京YWCA会館302号室
Tel. 03・3292・6121　Fax.03・3292・6122　office-japan@ywca.or.jp　www.ywca.or.jp
編集発行人 実生律子／偶数月1日発行
旬な情報発信しています　メルマガ登録　y-net@ywca.or.jp　にお名前を送ってください ／ フェイスブック　www.facebook.com/YWCAJapan

メールにてご意見・ご感想をお寄せください。今後の紙面づくりの参考にさせていただきます。 office-japan@ywca.or.jp
無断での複写・転用・転載はご遠慮ください。